

TOPICS

01 米国CollabNet社「CollabNet TeamForge」の取り扱いを開始

当社は、米国・CollabNet社の「CollabNet TeamForge (コラブネットチームフォージ)」の取り扱いを11月9日から開始しました。CollabNet TeamForgeは、業界で唯一、大規模なシステム開発やメンテナンスが不要なSaaS型で提供されるソフトウェア開発ALM\*プラットフォームで、オフショア開発や協力会社との協業といった分散開発環境下におけるソースコード・課題・文書などの一元管理による開発工程の「見える化」を実現します。当社は2008年から海外システムセンターでCollabNet TeamForgeを活用してきた実績を活かしながら、内部統制の強化、コミュニケーションの効率化をめざす企業への訴求を図ってまいります。

\*ALM (Application Lifecycle Management) アプリケーションソフトウェアの継続的な品質向上を図るため、開発・運用における各工程の成果物を管理する仕組みや決まりのこと。



02 コールセンターパッケージ「eSmileCall」をバージョンアップ

当社は11月11日、コールセンターパッケージ「eSmileCall (イースマイルコール)」をバージョンアップした「eSmileCall ver.2」を発売しました。今回のバージョンアップでは「使いやすさ」にこだわり、ユーザーであるオペレータからのご意見・ご要望や、コールセンター専門のコンサルタントによるモニタリング調査結果などを踏まえ「セルフカスタマイズ機能」などの新機能を追加したほか、入力しやすい画面に仕上げるため、全画面を再設計・リニューアルしました。今後、コスト削減を図りたい企業向けに訴求するほか、ERPパッケージ「GRANDIT」との統合提案を推進し、中小規模だけでなく大規模ユーザーもターゲットに入れ「ERP+CRM」としての拡販も図ってまいります。



03 平成22年3月期第2四半期決算を発表

当社は10月23日、平成22年3月期第2四半期決算を発表しました。当第2四半期連結累計期間(平成21年4月～平成21年9月)の当社グループの業績は、売上は前年同期をわずかに割り込みましたが、利益は徹底した合理化努力で増益となりました。これは、システム運用を柱とするビジネスモデルで安定的な収益をあげつつも、さらなる体質改善を図った成果です。

今年度後半も不透明な経済情勢が続くと予想されますが、当社は経営方針に基づく取り組みと体質改善を着実に進める一方、自らの経験とノウハウを活かし、お客さまに最適なサービス・ソリューションを提案してまいります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績

	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	比較増減 (%)
売上高	18,427	18,305	△0.7
営業利益	2,262	2,383	5.3
経常利益	2,324	2,401	3.3
四半期純利益	1,377	1,416	2.8

あいえす☆人物伝 その4 高橋伸昌



今回登場するのはIDCソリューション事業部の高橋伸昌。入社以来一貫して、パナソニック電工グループで使用するメールサーバの運用やドメイン管理などを担当しています。穏やかな笑顔が印象的な彼が最近取り組んでいた大きな案件は、2008年10月の社名変更に伴うドメイン変更と、旧アドレスに届くメールを停止するまでの業務。「管理者が勝手に止めて業務に支障がでないよう、ユーザーに案内を続けて最近ようやく旧ドメインを終了しました。」と話す姿はあくまで穏やかですが、その裏には並々ならぬ苦勞があった様子…。今後はメールサーバの統合サーバへの移行を検討すること。「運用体制をシンプルにし、標準化したいと思っています。サーバ統合によって省スペース・省エネにもつながるはず」と展望を語ってくれました。そんな彼、実は小学生のときからゴルフの打ちっばなしに通っていたとか。「残念ながら石川遼君みたいにはなりませんでしたが(笑)今も月に1、2回は先輩・同僚とコースに出て楽しんでいます」

編集後記

今回は、当社が課題解決のため、あらゆるチャレンジをし、ノウハウを蓄積してきた過程(ほんの一部)を紹介しました。「使ってみないとわからないこと」「課題の乗り越え方」など、ユーザーとしての経験を活かした当社の提案は日々進化中です!

発行元

パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社  
総務部 広報・IRグループ

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー16F  
TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 <http://panasonic-denkois.co.jp/>

※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。  
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Top INTERVIEW

「クチコミ」の時代がもたらしたもの。

先日、当社の営業マンとの会話のなかで「お客さまが求めるベンダー像が変わってきたのではないか」という話題が出ました。たとえばシステムの入れ替えを検討するときに、ベンダーはベンダーでも「ユーザーとしてその製品を使用した経験があるベンダー」を求めるお客さまが増えてきたのではないか、ということです。

これが一過性のものなのか、継続的なものなのか、今はまだわかりませんが、所有から使用へとシステムのあり方が変化するなかで、「わかる人にしかわからない」と聖域化してきたシステム構築や製品選定にメスをいれたい、という気持ちの現れではないかと推測しています。自らが検討するのは大変な労力ですから、ユーザー経験のあるベンダーの知識とノウハウを利用したいということなのでしょう。そして、このような動きに、私は情報化社会がもたらした変化の一端を感じるのです。

今や誰もがパソコンや携帯電話を使いこなす時代です。ITリテラシーの高まりといえればそれらしく聞こえますが、要は、コンピュータは私たちにとって何ら特別なものではなくなったということです。また、インターネットで容易に情報が収集できるようになったことで、私たちは「ユーザーによるクチコミ」という新たな商品・サービスの選定方法を得ました。かくいう私も、食事をする店の選択に、クチコミ情報サイトで収集した情報を大いに役立てています。そのポイントは「具体的指摘があるかどうか」「デメリットについて述べられているか」です。賞賛するだけの提灯記事より、実際に利用してみて得た実感のほうが重みがあり、信用に値すると思えるのです。

もちろん、家電や食品とは違い、システムはクチコミを頼り

に購入するものではありませんが、システムを見直す際にも、ベンダーからの一方的な説明ではなく、実際の体験談を知りたい・聞きたいと思うのは当然ではないでしょうか。そして、こういった時代になったからこそ、私たちパナソニック電工ISが自らユーザーとして得た知識・ノウハウ、すなわち現場力が高い評価をいただいているのではないかと私は思うのです。

私たちは、決して何でもできる優等生ではありません。課題があり、その解決方法に頭を悩ませ、今なお、さらなる成長に向かってあらゆる知恵を絞っています。そのなかで得た知識・ノウハウは、机上で編んだ理(想)論ではなく、きわめて実践的な内容です。私たちはこれからも、自らの経験から得た信頼度の高い「クチコミ」情報をお届けしていきたいと考えています。



パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社  
取締役社長 河村 雄良  
Takeyoshi Kawamura



# Close Up Now

## バックアップを考える

～これまでとこれから～

万が一の事態に備え、日々必要な「バックアップ」。特に最近、災害時のBCP(事業継続計画)の観点からクローズアップされています。今回は、磁気テープのバックアップと最新のディスクによるバックアップについて、パナソニック電工ISの経験を交えてご紹介します。

### これまでのバックアップ

#### とにかく手作業が多い、テープでのバックアップ

—昔は、どんな風にバックアップをとっていたのですか？

**浅里:** 私が入社した1972年ごろ、当時の松下電工の情報システム部門が使っていたのはIBM360モデル40というシステムです。これはシングルタスクといって、一つのジョブが終わるまで次のジョブに移れない仕組みでした。これが、1973～74年ごろIBM370モデル50に変わり、ようやく



IDC運用センター  
浅里 博文

マルチタスクといって、複数のジョブが並行して稼働し、バックアップ



IDC運用センター長  
水谷 巖

も同時に取れる仕組みになりました。  
**水谷:** 私は1974年の入社ですが、確かにその頃にはもうシングルタスクのシステムはなかったように記憶しています。この頃はまだ磁気テープや紙テープ、パンチカードも使っていましたよね。

**浅里:** 各事業所でカードにデータとしてパンチされたものを門真に運びホストコンピュータに読み込む。その時ちゃんとカードをきれいにしておかないと、リーダー内にカードが詰まってしまうエラーが多かったです。読み込んだ後のカードやコンピュータから出力されたカードも長期間、保存していたんじゃないかな。すごい量\*1ですよ。これもバックアップの一種でしょうか。

—手作業がとても多かったと聞きますが、

**浅里:** そうですね。コンピュータの画面をずっと見ていてテープ交換の指示がでたらすぐ取付作業。テープを間違っただけのところを取付けると上書きされてしまうので、十分な注意が必要でしたね。

**水谷:** 他の仕事にまごついてるとずっとほったらかしになって、後のジョブがどんどん遅れていくこともありでしたね。また、当時は磁気ディスクも手動で交換しなければいけなかったんで、直径50センチ、高さ30センチほどのドラム型のディスクの取り付けや取り外し作業もありましたね。これが結構重くてね\*2。



昔のテープ

**浅里:** 今はテープ交換ロボットがあるので手作業は随分減りましたが、あの頃のオペレータの仕事ってテープ交換、プリンター用の紙交換、ディスク交換の3つが主だったなあ。とにかく手作業が多かった。



大量に保存されているテープ

—今も、テープでのバックアップはありますか？

**浅里:** オープン化の進展とともに、パナソニック電工ISでは毎日180台のサーバのバックアップ作業が発生しています。ジョブの数は年次・月次・日次のものなどすべて含めて、ホスト系で5万3千ジョブ、オープン系のシステムで1万7千ジョブありますが、今後オープン系のシステムはますます増えると思われます。現時点ではバックアップ作業は昼間の2時間で、オペレータが5人で一斉に作業していますが、今後オープン系のシステムが増えたとオペレータの作業が増えないか心配です。

**水谷:** もちろんインフルエンザ・パンデミック対策は講じていますが、それでも実際に発生したときのことを想像すると緊張しますね。オペレータ経験者がいないわけではないけれど、どんどんシステムが進化しているので、昔のオペレーション技術を持っていても手が付けられない。私たちなんて絶対無理ですよ(苦笑)

—しかも、ロボットって、かなり大きくてスペースをとるらしいですね…。では最新の技術は、最前線のお二人に聞いてみます！



手作業でのオペレーション



巨大なテープ交換ロボット

### これからのバックアップ

#### テープでのバックアップの設計図は「からまったスパゲティ」？

—さきほどバックアップの歴史を聞いてきたのですが、バックアップは職人技というか属人的な要素が多いのでしょうか？

**安井:** バックアップは、「このサーバはこのテープドライブでこのテープに〇時からバックアップをとり、△時までに終わる」という感じで、パズルの組み立てのように設計をすることで、結構面倒なんです。目に見えないけれど、からまったスパゲティというか、きわめて複雑な列車運行ダイヤというか。だから、いざ列車事故＝トラブルが発生したら、どこのバックアップをどのテープでとっていたっけ?と追いかける羽目になる。



IDCソリューション事業部  
安井 達哉

**辻本:** しかも、このテープドライブの機械装置が聖域化してしまって、ベンダーしか触れないんですね。私たちSEでは「何かおかしい」ということしかわからない。仕方ないので、ベンダーに電話して来てくれるまで待つことになる。運用を始めたら復旧は手探りだし、ドライブを追加したときにどうなるのか、なんていうことでもハラハラしないといけなくて。



IDCソリューション事業部  
辻本 悠佳

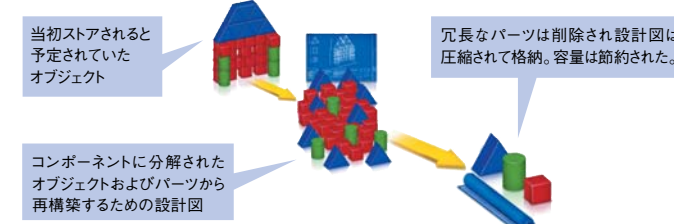
#### ディスクが変える、バックアップの未来

—当社は2008年からバックアップストレージにデータドメイン(以下DD)を導入しましたよね。テープからディスクへ。物理から仮想化へ。この変化は大きかったですか？

**安井:** DDを使うようになって、工数がすごく減りましたよね。パズルの組み立てをしなくていいから、以前のようにからまったスパゲティみたいなことにはなりません。テープ不良のような媒体障害時でもディスクなら自動的に切り替わってバックアップをとってくれるし、テープそのものの管理もなくていいし。

**辻本:** 運用・管理が本当に楽になりましたよね。当社ではデータ1TBあたりのバックアップに要するコストを計算したところ約30%の削減になっています。それにテープライブラリの機械装置は聖域化して触れなかったけれど、DDはLinuxベースなので、SEでもカスタマイズできますしね。おかげで運用時のブラックボックスもなくなりました。

**安井:** それにDDには重複排除機能があるでしょ。通常「圧縮」というと何でもかんでもただ「ぎゅー」って圧縮するのですが、DDの重複排除機能は、同じ情報かどうかを判別して新しい情報だけバックアップをとり、それをさらに圧縮します。だから、省エネ・省スペースにもつながります。



※3 自然災害などで被害を受けたシステムを復旧・修復すること。また、そのための備えとなる機器やシステム、体制のこと。

—そんなに高効率の圧縮ができるから遠隔バックアップにも有効なんですね！

**安井:** そうなんです。必要な部分だけデータを転送するから、ネットワークの回線費用が抑えられますよね。

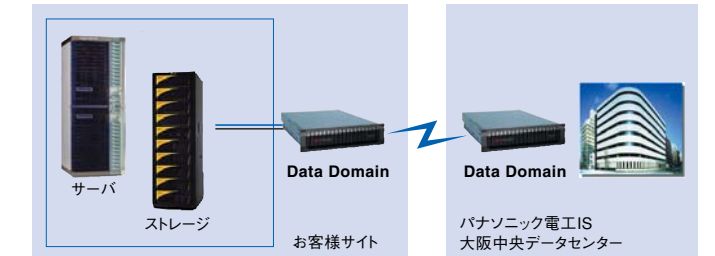
**辻本:** そのほかにも、バックアップ処理に要する時間が短く、オペレータの作業もテープの保管場所もいらぬ、万が一の時にも短時間で復旧できる、と遠隔バックアップにはいいことづくめですね。

**安井:** 今はまだテープのイメージがあるのでディザスタリカバリ\*3はすぐ大変そうに思えますが今後はDDのような製品を使ったソリューションが増え、製品の選択肢も増えて、取り組みやすくなるのではないのでしょうか。



当社が導入したDD580

#### 回線コストを抑え 遠隔バックアップを実現



#### コストカットが真の狙いか?～「統合」のこれから～

—当社の場合、DDを使ってバックアップ環境を統合して、効率化とコスト削減を実現したわけですね。

**辻本:** それなんですけど…。よく統合するとコストが下がる、だから統合だって言いますよね。でも、本当はそうじゃない。統合は単なる通過点です。内部統制対応だ、エコだ、セキュリティだと目的があっても、まず管理して状態を把握しないと次の一手が打てないじゃないですか。そのための第1ステップが統合なんです。集めたらそれで終わりじゃない。私たちが何にどう活かすか考えていかないとダメだなんて思いますね。

**安井:** 本当にそうですね。

—この経験とノウハウが次のステップに活かされる日も近いですね!

#### データドメイン株式会社の バックアップストレージ製品の取り扱いを開始

バックアップ統合の豊富な経験とノウハウを活用した  
ソリューション提案活動を展開予定

パナソニック電工ISは12月1日より、この特集で紹介したデータドメイン株式会社のバックアップストレージ製品の取り扱いを開始します。自らの豊富な経験とノウハウをもとに、お客様のバックアップの効率化をサポートいたします。

※1 当時のカードは100枚で厚さ2cm。1伝票にカードは少なくとも1枚使っていたので、売上5千件ですら高さ1mになっていた。 ※2 1978年の大幅に軽量化された最新型でも5kgあり、記憶容量は50MBだった。